

アワセグモ *Selenops bursarius* Karsch

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。主に、社寺林のスギ・ヒノキの樹幹に棲むが、確認されている生息地は豊田市と豊川市の3ヶ所だけである。樹木の伐採や殺虫剤の散布等によっては、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長9～13mm。背甲は褐色で中窩は黄褐色。歩脚は褐色で黒色の輪紋がある。腹部は灰褐色で不明瞭な矢はず斑がある。



豊田市猿投町(猿投神社), 2007年5月20日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市・豊川市の合計3ヶ所に分布する。

国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

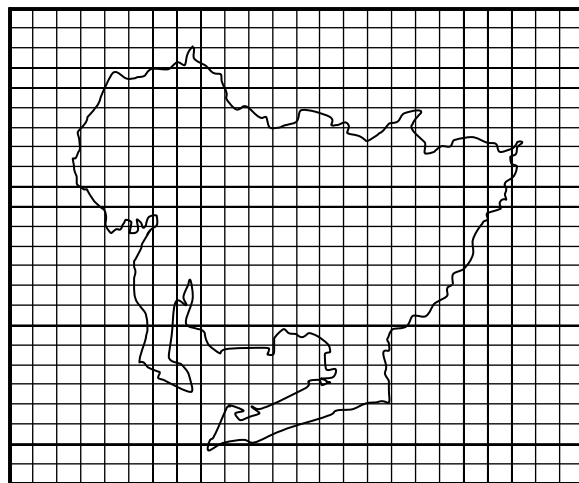
【生息地の環境 / 生態的特性】

豊田市・豊川市とも社寺林のスギの古木に生息している。昼間は樹皮のすき間に潜んでいるが、夜間、樹幹を徘徊する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

豊田市の猿投神社の境内では生息密度は高いが、豊田市千鳥町と豊川市の社寺林ではスギの古木が数本しかなく、個体数は少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

社寺林の古木を残すこと。生息地での殺虫剤の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.52, p.196. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.